

第4回 瀬戸市小中一貫校開校準備委員会

次 第

平成30年3月22日（木）

午後3時30分から

瀬戸市役所4階大会議室

1 あいさつ

2 議事

(1) 小中一貫校における教育について

1) 教育目標及びその基本的な考え方

…資料番号1-1

2) 具体的な教育内容（英語教育・地域学習）

…資料番号1-2

(2) 学校施設について

1) 利用面からみた学校運営

…資料番号2-1

2) 施設概要

…資料番号2-2

3) 工事スケジュール

…資料番号2-3

(3) 地域協働について

1) PTA ワークショップ結果報告

…資料番号3

(4) その他

3 その他

小中一貫校の基本コンセプト

「出会い・協働、学び合い」

学校と家庭・地域が、教育の当事者として、それぞれの役割を認識し、新たな組織の目的をもって協働する体制づくりを目指す

地域の特徴
○ 5地区が集まってできた大きな地域である。
○ 地区によって異なるせともの文化が根付いている。
○ 学校行事やPTA活動など、学校に協力的に関わっている。

教育目標を達成するための「地域」の役割
例 子どもたちの登下校の安全を守る
○

「地域」が行う具体的な活動
1 例 子どもたちの登下校時に通学路に立ち、交通事故や犯罪を防ぐ見守り活動を行う。

教育目標

教育目標

学び、つながり、挑戦する9年間

自ら学ぶ

- 自ら課題をもつ
○ 自ら考える
○ 学び合う
○ 学びを振り返る

つながる

- 人とつながる
○ 地域とつながる
○ 社会とつながる
○ 過去・未来とつながる

挑戦する

- 夢や希望をもつ
○ より高い目標に向かう
○ 失敗や挫折を乗り越える
○ 努力を継続する

教育目標を達成するための基本的な学校経営方針

- 家庭、地域、学校が教育目標を共有し、協働する。
○ 地域、大学、企業などと連携し、9年間を見通した教育を展開する。

英語教育

1年生から9年生までの9年間を見通した系統的な英語教育を展開する。

キャリア教育

地域と協働しながら、9年間を見通した系統的なキャリア教育の実践を展開する。

運動促進

大学と連携し運動促進プログラムを作成し、多様な運動に親しむ活動を設定す

特色ある活動

地域学習

地域人材や地域の施設などを活用しながら、系統的な地域学習を展開する。

異学年交流

異学年や地域の方々など、多様な人たちとの関わりを通して、自己有用感を高めます。

食育

9年間を見通して、食生活や食文化についての理解を深める。

教科指導 ～基礎基本の徹底～

特別支援教育

学級経営

コミュニティ・スクール
～学校運営協議会～

瀬戸市が目指す人間像と5つの基本的な方向



子どもたちの現状
○ 素朴で親しみやすく、前向きに学校生活を送っている。
○ 地域の行事に積極的に参加し、地域とのつながりが強い。
○ 真面目に学習に取り組むが、苦手意識もある。

教育目標を達成するための「家庭」の役割
例 子どもの学習状況を把握する
○

「家庭」が行う具体的な活動
1 例 子どもの宿題や家庭学習のチェックを行う。

① 自ら学ぶ

- 自ら課題をもつ
- 自ら考える
- 学び合う
- 学びを振り返る

自ら学ぶ

○ 自ら課題をもつ

学習の導入や学びの振り返りを通して、児童生徒が好奇心や向上心を持ち、学習に対する興味関心、必要性から課題を見出すことで、課題を解決していけるようにします。

○ 自ら考える

調べ方、話し合い方、考えの整理分析の仕方などを身に付けることを通して、自らもった課題を解決する方法を身に付け、課題解決のために自ら考え、探究できるようにします。

○ 学び合う

調べたことを共有したり、考えを広げたり深めたりするために、友達と話し合ったり教え合ったりします。異学年の友達や地域の人たちとも学び合います。

○ 学びを振り返る

「何が分かるように、できるようになったか」とともに、「どうして、どのようにして分かる、できるようになったか」を振り返ることを通して、次の学びへつなぎます。

② つながる

- 人とつながる
- 地域とつながる
- 社会とつながる
- 過去・未来とつながる

つながる

○ 人とつながる

クラスの友達はもちろん、1年生と9年生ように、異学年の友達とも一緒に学習します。また、家族、地域の人たち、教職員などとも一緒に学習するなど、互いに支え合いながら学校生活を送ります。

○ 地域とつながる

地域とともにある学校として、地域とともに地域を学び、地域のことを考え、地域に貢献します。そうすることで、地域への愛着を深め、地域の一員としての自覚を高めます。

○ 社会とつながる

学校を社会の縮図と捉えます。社会通念に照らし合わせた学校生活を通して、社会で生き抜くすべを学びます。そうすることで、社会の一員としての自覚を高めます。

○ 過去・未来とつながる

1年生が9年生を見て、将来の自分を思い描きます。9年生が1年生を見て、自分の成長を感じます。また、上級生が築いた伝統を、下級生が受け継ぎます。

③ 挑戦する

- 夢や希望をもつ
- より高い目標に向かう
- 失敗や挫折を乗り越える
- 努力を継続する

挑戦する

○ 夢や希望をもつ

自己肯定感や自己有用感を高め、なりたい自分、なりたい職業をもてるようにすることを通して、学ぶ意味を見出します。

○ より高い目標に向かう

学校における諸活動において、具体的な目標を立てます。目標を達成し、達成感を味わうことで、より高い目標に向かっていけるようにします。

○ 失敗や挫折を乗り越える

失敗や挫折をした時には、乗り越え方を一緒に考えます。転ばないようにするのではなく、転んだ後の立ち方を学びます。

○ 努力を継続する

いつもの授業、いつもの学校生活を大切にすることを継続していきます。「いつも」の「一生懸命」を積み重ねていきます。

全ての教育活動に3つの視点を貫きます

小中一貫校の英語教育

● 1年生から9年生まで見通した、独自のカリキュラムを編成します！

1、2年生

生活に密着した英単語、あいさつや簡単な英会話に、楽しみながら親しみます。

年間20時間程度

3、4年生

身近な事柄を聞いたり、簡単なやり取りや発表をしたりしながら、英語に親しみます。

年間40時間程度

5、6年生

英語で簡単なコミュニケーションが取れる、聞く、読む、話す、書く力を高めます。

年間70時間程度

7～9年生

日常的な話題について、コミュニケーションが取れる、聞く、読む、話す、書く力を高めます。

年間150時間程度

9年間を通して、英検3級程度の力をつけることを目指します。

● 毎日、英語に親しみます！

日課に組み込まれている10～15分の短時間学習において、英語学習を取り入れます。教育課程や子どもたちの実態に合わせて、絵本、歌、チャンツ、スモールトーク、ゲームなどを組み合わせながら、話す、聞く力を高めます。毎日、英語に触れることで、学習効果を高めます。



● 千一ム学校で英語を学習します！

通常の授業や短時間学習などを通して、担任、英語専科の教員、ALTで力を合わせて英語の授業を進めていきます。授業後には、英語の授業のための研修を重ね、学校全体で英語教育に取り組んでいきます。

● 学んだ英語をいかすことができます！ ～オーストラリアとニュージーランドとの交流～

オーストラリアとニュージーランドの学校と国際交流を行います。現地校へホームステイをしたり、留学生を迎え入れたりして交流を深めます。また、現地校と日常的に連絡ができるように環境を整備し、普段から交流を図れるようにすることで、学んだ英語をいかせるようにしていきます。



● 英語で伝えるやきもの文化！

地域学習で学んだ、瀬戸市の魅力やせともの文化を英語で伝えます。SNSを使って世界に発信します。

● もっと英語を学びたい！

もっと英語を学びたい子どもたちのために、「放課後イングリッシュカフェ」を設置します。放課後に教室を開放し、英語で会話したり、授業の予習復習をしたり、時には催し物をしたりして、英語により親しむ空間をつくります。英語に触れたい地域の方々も参加可能です。

小中一貫校の地域学習

● さまざまな教科を関連させて

9年間を見通した、独自のカリキュラムを編成します！

1～3年生

瀬戸市を中心とした地域の自然、産業、市民の暮らしについて理解し、瀬戸の良さについて考えます。

3年間で130時間程度

4、5年生

他の地域と比較をしながら、瀬戸を中心とした地域の自然、産業、市民の暮らしについて理解し、瀬戸の特色について考えます。

2年間で100時間程度

6～9年生

他の地域と比較をしながら、瀬戸を中心とした地域の自然、産業、歴史、市民の暮らしについて理解し、瀬戸の発展について考えます。

4年間で140時間程度

瀬戸の発展に貢献したいという子どもたちを育てます。

● 瀬戸について知ります！

瀬戸の自然、産業、歴史、市民の暮らしについて学習します。また、他の地域の特色を学習することで、他の地域にはない瀬戸の特色を理解できるようにします。

関連教科：生活科、社会科、総合的な学習の時間
道徳



● 瀬戸を体感します！

2、3年生では、まち探検に出かけ、土地利用の様子や公共施設の働き、自分たちがくらす地域の良さを体感します。7年生では、子どもたちが、興味のある窯元を訪問し、陶芸職人の技を体感します。

関連教科：生活科、社会科、総合的な学習の時間



● 多面的に「せともの」をとらえます！

せともの作り方はじめ、種類、歴史、陶磁器産業としての現状、伝統文化としてのせとものなど、さまざまな視点からせとものについて捉えられるようにします。

関連教科：社会科、総合的な学習の時間



● 地域と、地域を学びます！

地域の人たちに来校してもらい、瀬戸のことについて教えてもらいます。また、子どもたちが地域に出かけ、地域の人たちに地域のことを教えてもらいます。地域の人たち、地域にあるもの全てが、子どもたちの教材です。

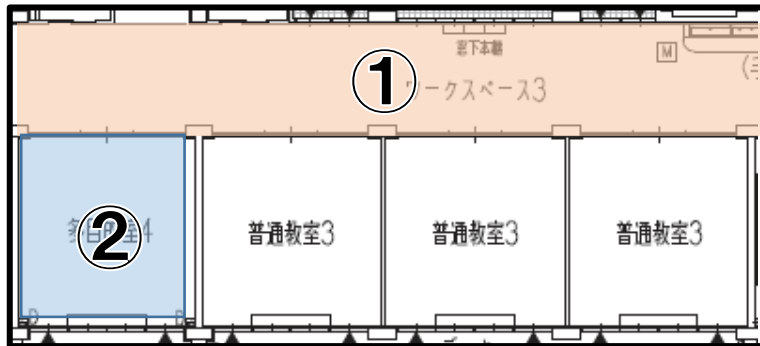
瀬戸市が抱える問題を解決したり、理想のまちづくりを実現したりするために、実現すべき政策を考えます。さらに、今後、個人としてどのように瀬戸と関わっていくかを考えます。

関連教科：社会科、総合的な学習の時間

施設の利用面から見た施設一体型小中一貫校での学校運営について

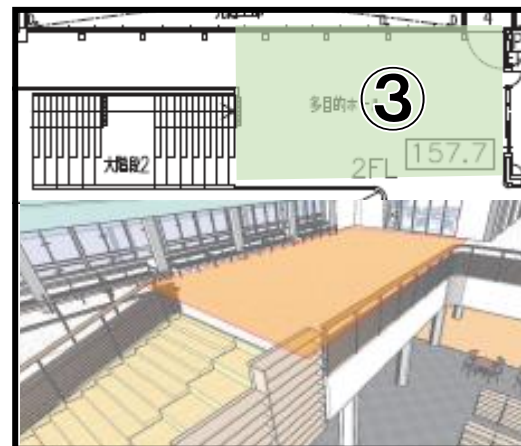
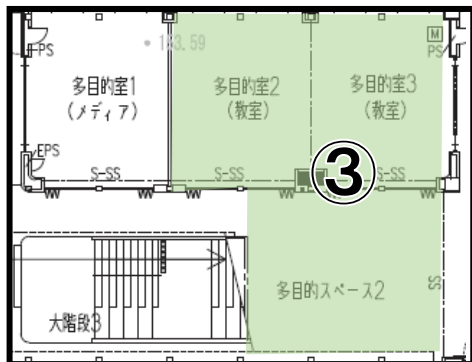
	1階				2階				
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
カリキュラム	学習規律の定着				主体的な学習の促進			主体的な学習の定着	
	自己肯定感の獲得				自己肯定感から自己有用感への醸成			自己有用感の獲得	
担任制	学級担任制				一部教科担任制		教科担任制		
運営システム	移動を伴わない教室固定型				一部の教科ごとに教室を移動				

【施設活用案】



2階登り窯ステップ
イメージ図↓

1階可動式ドアの多目的室及び
多目的スペース ↓



①ワークスペース

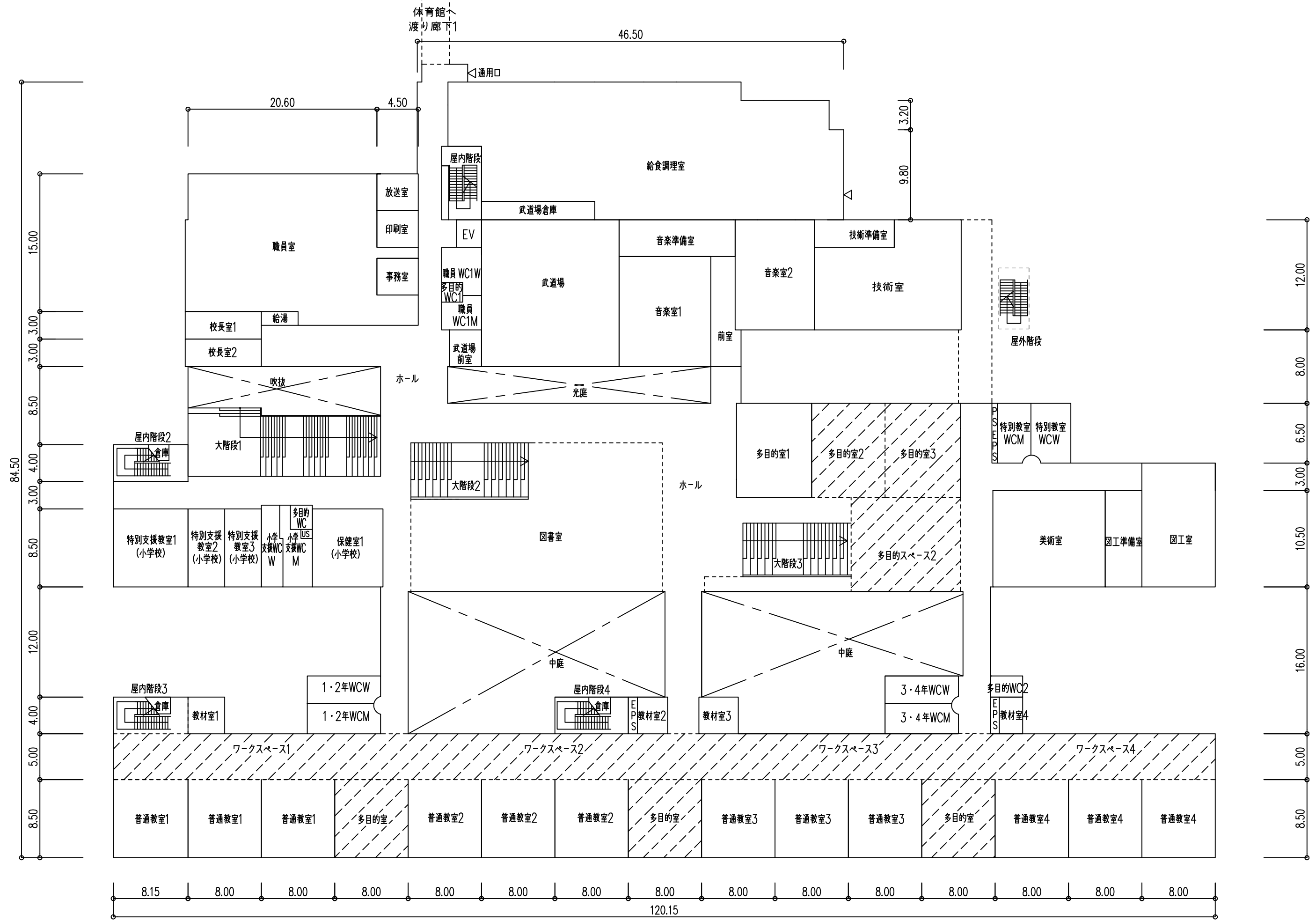
グループでの話し合い活動や調べたことを模造紙にまとめたり、それを発表したり表現活動など、各教科における主体的・対話的で深い学びに関する活動において活用する。

②多目的室

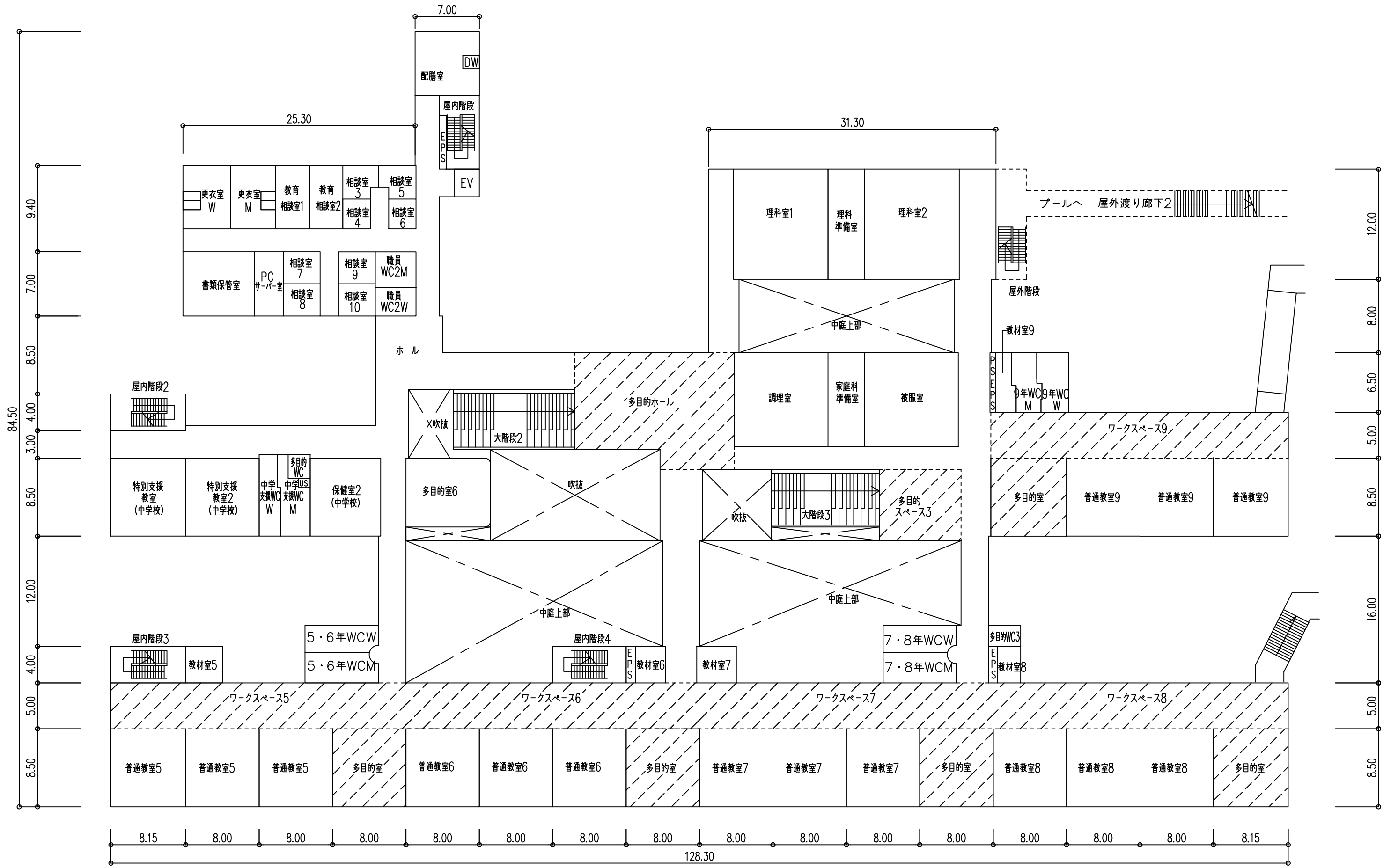
普通教室の隣に多目的教室を配置し、この教室で算数の授業において、3クラスを4分割することで、よりきめ細かく子どもたちを指導する。該当学年の授業に関する資料を置いておくことで、探究活動を促進する。

③多目的スペース

異学年で一緒に給食を食べたり発表を見せ合ったりするような異学年交流や食育の場として活用する。地域の方々に来校していただき、講話や体験学習の場として活用する。



1階平面図



2階平面図

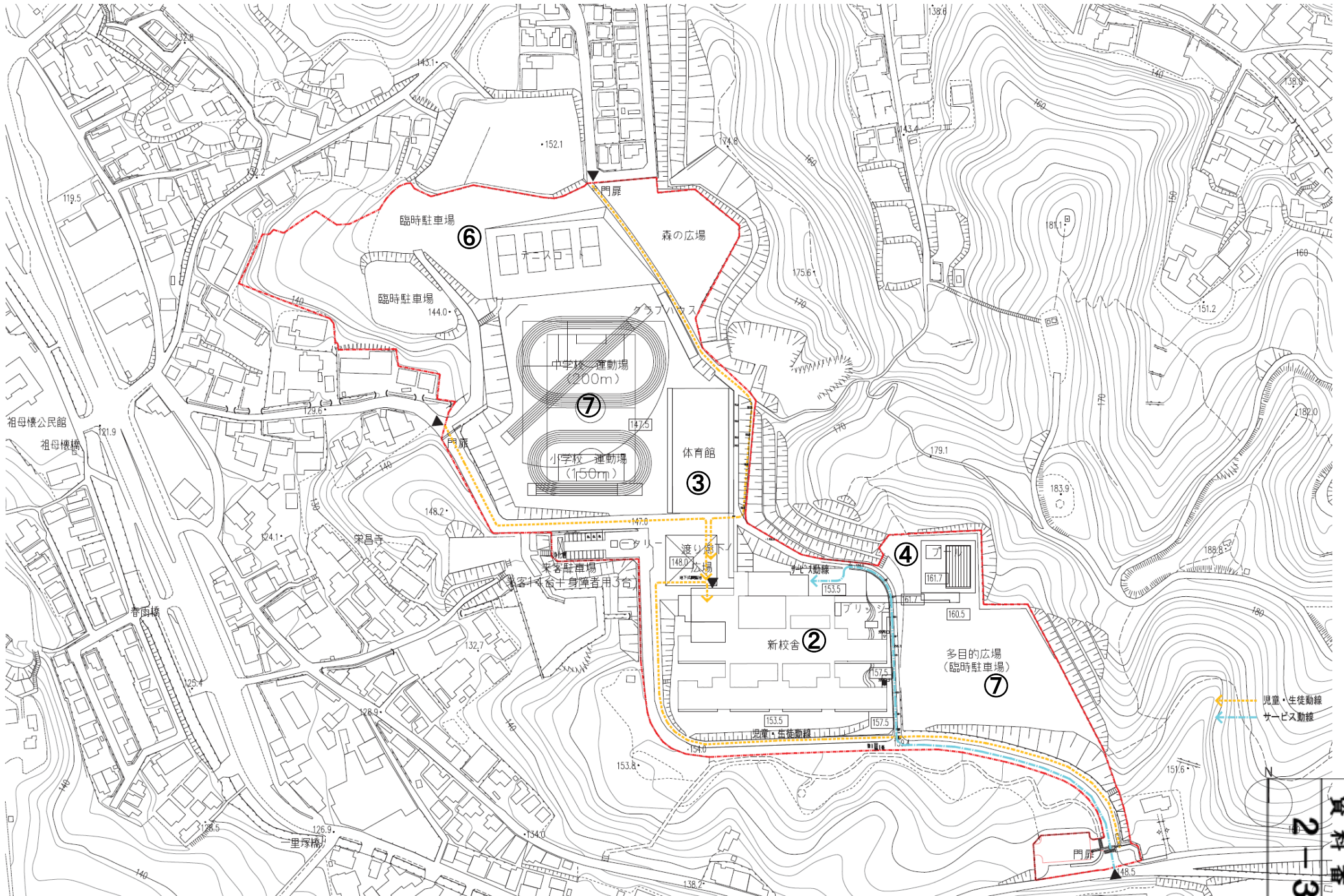
小中一貫校建設工事スケジュール（案）

	工事内容等	平成30年度（2018年度）				平成31年度（2019年度）				平成32年度（2020年度）			
		4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
①	東公園構造物解体敷地造成工事	—————→											
②	校舎建築工事					—————→							
③	体育館建築工事					—————→							
④	プール建築工事					—————→							
⑤	備品搬入・引越									—————→			
⑥	祖東中学校解体工事									—————→			
⑦	グラウンド整備工事									—————→			

※現段階での案であり、工事業者決定後に再度ご提示します。

☆
4
/
1
開校

☆
3
/
末全体竣工



2017 瀬戸市小中一貫校第 3 回ワークショップ

『各校の PTA 活動を知ろう！』

2018 年 1 月 16 日 (火) 18:30 ~ 20:30、瀬戸市役所

参加者 (保護者 14 名、教員 14 名、大学生 9 名、瀬戸市職員)



グループワーク

1) 各学校でこれまでどのような PTA 活動をしてきたか振り返り、成果の上上がっていること、課題となっていることを整理する。2) 各学校の実績を踏まえ、一貫校でどんな PTA 活動ができるか、すべきかを話し合う

ディスカッションの成果 (* 主要項目を抜粋)

	どのようなPTA活動をおこなっているか	PTA活動で成果が上がっていること、課題となっていること	各学校の実績を踏まえ、一貫校でどのようなPTA活動ができるか
深川小学校	ごあいさつ運動の実施 ふれあい学級(親子)企画 救命講座 給食試食会 教養講座を開催	人数が少ないので参加割合は多い 他校との交流が少ない 世帯数が少なく会費も少なくなる 父親の参加が少ない	他地区の様子がわかり、知識の幅が広がる 予算が増え、内容が充実できる 親子で参加できる行事が増え盛大になる 人手不足の解消 それぞれの地区が協力して1つの事を成しとげる
祖母懐小学校	親子料理教室 AED講習 給食試食会 とうろろ作り ゆうすずみの会	準備が大変 負担の偏り 参加者が固定 スキル不足 道具不足	学校ボランティアを増やす 各校、各地区の特色をいかすことができる活動 出会いとつながりを楽しめる活動 (夏)祭り 中学生が主体で学園祭 父親の積極的な参加
道泉小学校	HPに写真をUP(広報) PTA研修会 救命講習 給食試食会 通学路点検	HPへの写真UPがコンスタントにできない 役員・委員のなり手不足	地区合同のお祭りを行う 7校のつながりが深まるようなアクション PTA組織を今までとは違う発想で作る 地域の活動は大事にしながらお行事を作っていく 各地区での取り組みを全地区の取り組みにする
東明小学校	救急救命講習会 教育講演会 陶器販売(まるっとせとつ子) 廃品回収 校長室へ行こう	地域の今後 独自の物は今後どうするのか 天候 量(金額)減っている	各地域の特徴を残す 多くの人に関わってほしい 夏休みのプール見守り 環境設備 声掛け運動
古瀬戸小学校	スマホ安全教室 石鹸作り ヨガ教室 おやじクラブ(メダカ池の掃除) 防災訓練	廃品回収の運営が人手不足 PTA行事の参加者が少ない 役員の負担が大きい	PTA新聞を学校便りにして役員を減らす コーディネーターが学校とPTAの仕事を仕分け PTA(学校内)と地域ボランティアの会
祖東中学校	リサイクル活動 挨拶運動 PTA研修 全体セミナー パトロール(お薬師祭り) 親子奉仕作業	全員が関われる運営 組織の在り方(PTA3年固定) 役員決め・委員決め	行事は小中合同の工夫を 地域の結びつきを大切に なにか一つ 資金繰り 魅力あるPTA活動
本山中学校	ふれあいセミナー 窯業クラブ(作陶、焼成他) せともの祭りへの出店販売 国際交流事業への協力 リサイクル活動	男性が少ない PTA会員の減少 行事への協力体制 窯業クラブ活動維持の仕方 マンネリ化解消、新しいことがやりづらい	部活動の活性化 7校のいいとどりをしてはいけない 0ベースで考える 役員数はなるべく少なくボランティアで運営 通学のサポート

各校の PTA 活動

地域の人材や資源を活かした独自の活動が展開されている

PTA 活動の課題

会員が少ない、参加率が低い、役員の負担が大きい

一貫校の PTA 活動の不安と期待

各地域の独自性を尊重しつつ、一貫校として新しい取り組みが可能か
多くの自治会と学校が良い関係を構築できるか
新しい出会いや繋がりに期待したい

小中一貫校の開校に向けた課題と教育活動に係る考え方の適正なステップについて

モデル地区の小中一貫校において、9年間の教育目標(※資料番号1-1参照)を着実に達成し、一人ひとりの子どもたちの「自ら考え、学び、生き抜く力」を育むことを目指す上での課題と教育活動に係る考え方の適正なステップ(進行上の段階)を示します。

課題

2020年の小中一貫校の開校までに、私たちが共通理解のもとで、ともに解決しなければならない問題。

①教育目標の共有化

学校をはじめ、家庭、地域など、すべての学校関係者が教育目標を正しく理解し、共有すること。

②役割の明確化

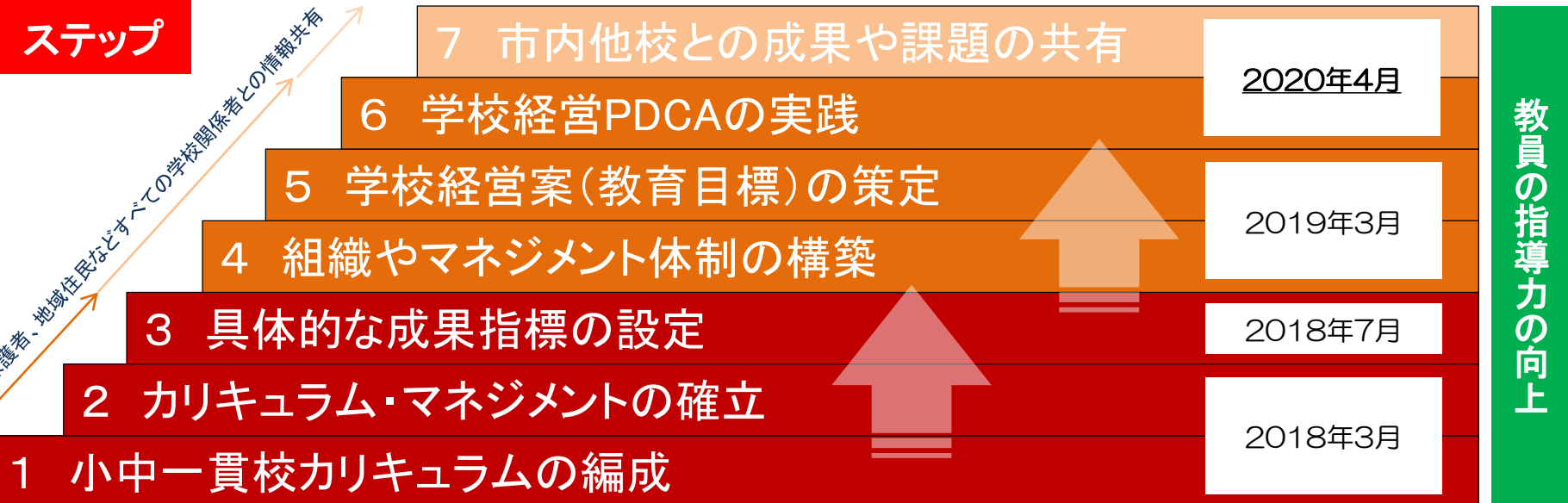
学校、家庭、地域におけるそれぞれの役割や責任の所在を明確にし、相互に共有すること。

③PDCAなどの意識化

目的(目指す人間像)・教育目標・手段(カリキュラムなど)に係る全体像を正しく理解すること。

ステップ

■スケジュール



○小中一貫校に向けた課題などの整理（心配ごとやアイデア）

「瀬戸市小中一貫校施設整備基本構想」報告書より
平成29年度3月策定

